

## △副院長あいさつ△

昭和五十年にこの花壇に父がクリニックを建設した頃のことを思い出しました。建築段階を毎週のように父と弟と訪れていたこと、今は亡き大好きだった祖父と手をつないで道路脇を歩くと、草が背丈ほど生い茂って私の顔や体はかゆくて仕方なかつたこと、また、開業時日曜日になると家族そろつて町に行つて、一緒に本屋さんに行つたり、父は好きなコーヒーを、私はジュースを飲みながらいつしょに話をするのが楽しかつたことが思い出されます。たまに家族いつしょに町で外食ができるも料理がくる前に父だけが病院に呼び戻され、残つた家族で寂しく食べていたこと。当時、それほど父は忙しかつたのです。唯一の旅行時のこと、なぜか父はうれしそうに私にくりかえし笑顔を向けてくれたこと。車がめつたに通ることのない小道を弟と二人で日が暮れるまで暴走していたこと。遠足になると、おやつを買うため野にはスーパーなどありませんでした）。学校帰り、あまりにも長い道のりなので、ぐみを食べたり、葉っぱや花を食べながら家に帰る途中、父と文夫兄ちゃん（現在の事務局長）、木佐貫さん（現在の看護部長）の乗つた往診車によく出会い乗せてもらつたこと。そんなことを思い出しました。

医者になり、鹿児島に戻ってきた私はお嫁に行き、父が開業した病院で働くとは思つてもいませんでした：この明輝会に勤務して十年が経ちます。ただ年を取りただけなのか、大人になつたのか自分ではわかりませんが、患者さんとの会話やふれあいによつてずいぶん自分の価値観が変わつたように思います。年齢を重ねることはこんなにしてきことなのかということをもわかつてきました。また患者さんの背後にいる様々なご苦労なども見えてくることがあります。私は、そういう方々の訴えを真摯に受け止め、温かい医療を提供していきたいと強く願っています。医者だということで緊張される方もいらっしゃいますが、最近は些細なことでも知らせてくれたり、ボディータッチしてくださいとする患者さんも出てきました。どんなことでも遠慮なく相談してください。

内村川上内科副院長 川上 咲子

(副院長プロフィール)

鹿児島市出身 七月十三日生 B型  
最近凝つてること・・・骨盤矯正  
趣味・・・ダンス(ダンスカラオケ)  
好きなタレント・・・佐藤浩市



自宅庭に咲いたチューリップ

野口たくちゃん